

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公 開 特 許 公 報(A)

(11) 特許出願公開番号
特開2004-16552
(P2004-16552A)

(43) 公開日 平成16年1月22日(2004.1.22)

(51) Int.Cl. ⁷	F I	テーマコード (参考)
A 6 1 G 12/00	A 6 1 G 12/00 W	3 E 0 2 3
B 0 9 B 3/00	B 0 9 B 3/00 3 O 1 Z	4 C 3 4 1
B 6 5 F 1/00	B 6 5 F 1/00 W	4 D 0 0 4
B 6 5 F 1/10	B 6 5 F 1/10 Z A B	

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号	特願2002-177117 (P2002-177117)	(71) 出願人	591000861 エイシイ・デイシイ株式会社 神戸市兵庫区西橋通1丁目1-22 セン トラルハイツ神戸305号
(22) 出願日	平成14年6月18日 (2002.6.18)	(71) 出願人	502218662 日本メディカル・ウエスト・マネジメン ト株式会社 東京都港区芝五丁目29番19号 (旭ビル)
		(74) 代理人	100075502 弁理士 倉内 義朗
		(72) 発明者	小川 秀和 神戸市北区花山東町2-23-702
		Fターム(参考)	3E023 AA03 AA18 GA01 HA04 4C341 LL16 4D004 AA48 AC02 CA03 CB15

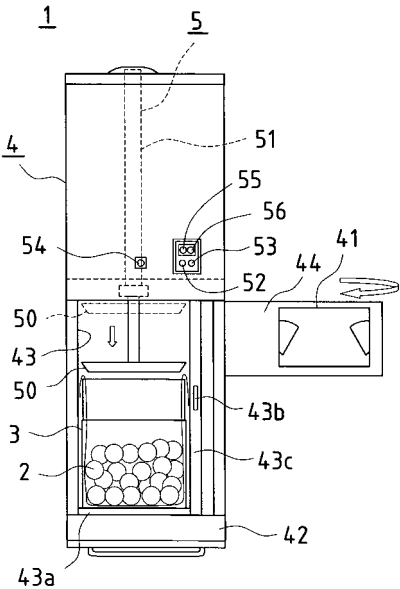
(54) 【発明の名称】 医療廃棄物処理装置

(57) 【要約】

【課題】安全に効率良く医療廃棄物を回収するための処理装置を提供する。

【解決手段】上面が開いた収納容器3内に、医療廃棄物2を減容状態で回収する医療廃棄物処理装置1であって、下部に設けられた排出扉42から収納容器の出し入れを行って、内部下方に収納容器を配置できるようになされた装置本体4と、この装置本体4内の収納容器3の上方に設けられ、収納容器3に投入された医療廃棄物2を、押圧片50で押圧するようになされた押圧装置5とを具備し、押圧装置5は、押圧装置5の処理ボタン52を押すことで、収納容器3の上方から、この収納容器3内の医療廃棄物2を押圧片50で押圧し、その後、押圧片50による押圧を解除して収納容器3内に医療廃棄物2を投入可能な位置まで押圧片50が上昇する。

【選択図】 図2



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

上面が開口した収納容器内に、医療廃棄物を減容状態で回収する装置であって、下部に設けられた出入口から収納容器の出し入れを行って、内部下方に収納容器を配置できるようにされた装置本体と、この装置本体内の収納容器の上方に設けられ、収納容器に投入された医療廃棄物を、押圧片で押圧するようになされた押圧装置とを具備し、押圧装置は、押圧装置の処理ボタンを押すことで、収納容器の上方から、この収納容器内の医療廃棄物を押圧片で押圧し、その後、押圧片による押圧を解除して収納容器内に医療廃棄物を投入可能な位置まで押圧片が上昇するようになされたことを特徴とする医療廃棄物処理装置。 10

【請求項 2】

上面が開口した収納容器内に、医療廃棄物を減容状態で回収する装置であって、下部に設けられた出入口から収納容器の出し入れを行って、内部下方に収納容器を配置できるようにされた装置本体と、この装置本体内の収納容器の上方に設けられ、収納容器に投入された医療廃棄物を、押圧片で押圧するようになされた押圧装置とを具備し、押圧装置は、押圧装置の処理ボタンを押すことで、収納容器の上方から、この収納容器内の医療廃棄物を押圧片で押圧した状態となされ、再度処理ボタンを押すことで、押圧片による押圧を解除して収納容器内に医療廃棄物を投入可能な位置まで押圧片が上昇するようになされたことを特徴とする医療廃棄物処理装置。 20

【請求項 3】

押圧装置による押圧片のストロークの長さや押圧力の変化を検知することで、収納容器内の医療廃棄物の容量を把握することができるようになされた請求項 1 または 2 記載の医療廃棄物処理装置。

【請求項 4】

装置本体に投入扉が設けられ、この投入扉を開けて装置本体内に配置された収納容器内に医療廃棄物を投入するようになされた請求項 1 ないし 3 の何れか一記載の医療廃棄物処理装置。

【発明の詳細な説明】 30

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、病院などで発生する医療廃棄物の処理方法に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

一般に、病院などでは、傷口患部などに設けたガーゼの取り替えや消毒などを行ったりするたびに、ガーゼ、脱脂綿、包帯、絆創膏などの医療廃棄物が発生する。

【0003】

従来より、図 8 に示すように、このような医療廃棄物 a は、一般のゴミと一緒に捨てることができないので、一般のゴミとは別のゴミ袋 b をセットした専用のゴミ箱 c に回収していた。そして、この専用のゴミ箱 c に溜まった医療廃棄物 a は、ゴミ袋 b を介して医療廃棄物 a 自体が見えたり、ゴミ袋 b が破れて医療廃棄物 a に直接触れたりしてしまうことにならないように、ゴミ袋 b ごとダンボール箱 d などの入れ物に入れ、このダンボール箱 d の単位で処理業者に回収してもらっていた。 40

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

しかし、ゴミ袋 b ごとダンボール箱 d などの入れ物に入れて医療廃棄物 a を回収する場合、実際の医療廃棄物 a の容量よりも嵩張ってしまうといった不都合を生じることとなる。

【0005】

そのため、医療廃棄物 a の入ったゴミ袋 b を、ダンボール箱 d に入れる前に手で押圧して 50

容量を減らしてできるだけ多くの医療廃棄物 a を一つのダンボール箱 d に納めるといったことが考えられるが、医療廃棄物 a の腐敗臭が発生したり、医療廃棄物 a に繁殖した菌から病気が感染するといったことが懸念されるので、安全に回収作業を行うことができないといった不都合を生じることとなる。

【0006】

したがって、このような医療廃棄物 a は、ダンボール箱 d の箱一個の単位で処理経費がかかるにも係わらず、ダンボール箱 d 内にできるだけ多くの医療廃棄物 a を詰めることができず、効率良く経済的に回収することができない。

【0007】

本発明は、係る実情に鑑みてなされたものであって、安全に効率良く医療廃棄物を回収するための処理装置を提供することを目的としている。 10

【0008】

【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するための本発明の医療廃棄物処理装置は、上面が開口した収納容器内に、医療廃棄物を減容状態で回収する装置であって、下部に設けられた出入口から収納容器の出し入れを行って、内部下方に収納容器を配置できるようになされた装置本体と、この装置本体内の収納容器の上方に設けられ、収納容器に投入された医療廃棄物を、押圧片で押圧するようになされた押圧装置とを具備し、押圧装置は、押圧装置の処理ボタンを押すことで、収納容器の上方から、この収納容器内の医療廃棄物を押圧片で押圧し、その後、押圧片による押圧を解除して収納容器内に医療廃棄物を投入可能な位置まで押圧片が上昇するようになされたものである。 20

【0009】

また、上記課題を解決するための本発明の医療廃棄物処理装置は、上面が開口した収納容器内に、医療廃棄物を減容状態で回収する装置であって、下部に設けられた出入口から収納容器の出し入れを行って、内部下方に収納容器を配置できるようになされた装置本体と、この装置本体内の収納容器の上方に設けられ、収納容器に投入された医療廃棄物を、押圧片で押圧するようになされた押圧装置とを具備し、押圧装置は、押圧装置の処理ボタンを押すことで、収納容器の上方から、この収納容器内の医療廃棄物を押圧片で押圧した状態となされ、再度処理ボタンを押すことで、押圧片による押圧を解除して収納容器内に医療廃棄物を投入可能な位置まで押圧片が上昇するようになされたものである。 30

【0010】

また、上記医療廃棄物処理装置において、押圧装置による押圧片のストロークの長さや押圧力の変化を検知することで、収納容器内の医療廃棄物の容量を把握することができるようになされたものである。

【0011】

さらに、上記医療廃棄物処理装置において、装置本体に投入扉が設けられ、この投入扉を開けて装置本体内に配置された収納容器内に医療廃棄物を投入するようになされたものである。

【0012】

【発明の実施の形態】 40

以下、本発明の実施の形態を図面を参照して説明する。

【0013】

図1ないし図3は本発明に係る医療廃棄物処理装置1の全体構成の概略を示している。

【0014】

すなわち、この医療廃棄物処理装置1は、医療廃棄物2を収納容器3に回収する装置であって、装置本体4、投入扉41、押圧装置5を具備している。

【0015】

医療廃棄物2としては、ガーゼ、脱脂綿、包帯、絆創膏、ギプス、おむつ、産汚物、廃薬品類などが挙げられる。

【0016】

収納容器 3 は、図 4 に示すように、上面が開口するダンボール箱 3 1 の内側に、ビニール袋 3 2 を設けたものが使用される。ダンボール箱 3 1 は、上面のフラップ 3 1 a を立てた状態とされ、ビニール袋 3 2 は、その開口部分を、ダンボール箱 3 1 のフラップ 3 1 a の端部周縁に折り返して固定され、収納容器 3 は、この状態で使用される。この収納容器 3 の大きさとしては、特に限定されるものではなく、例えば、縦約 370 mm、横約 370 mm、高さ約 370 mm となされた正方形状のものを使用することができる。また、収納容器 3 は、安価で使い捨てができる簡易なものであれば、特にダンボールに限定されるものではなく、樹脂製のダンボール容器であってもよい。

【0017】

装置本体 4 は、幅約 63 cm、奥行き約 68 cm、高さ約 170 cm に形成されており、鋼製フレームの外装に鋼板を取り付けて構成されている。装置本体 4 の前面の下から約 60 cm の高さの範囲は、前方に倒し込んで開けることができるようになされた排出扉 4 2 が設けられており、この排出扉 4 2 を開けた内側は、収納容器 3 の収納部 4 3 となされている。この収納部 4 3 は、収納容器 3 を設けた状態で、この収納容器 3 との間に隙間ができないように、鋼板が内張りされて大きさが定められている。

【0018】

また、この収納部 4 3 は、後述する押圧装置 5 による 5 t o n の垂直荷重に対して耐え得るように鋼材や鋼板で補強されており、その底部には、5 t o n の設定荷重を越えた過負荷荷重から保護するための荷重リミット装置 4 3 a が設けられている。この荷重リミット装置 4 3 a としては、ロードセル（図示省略）やリミットスイッチ（図示省略）などを用いて構成したものを使用することができる。

【0019】

さらに、図 5 に示すように、この収納部 4 3 の一側部には、ハンドル 4 3 b が設けられた鋼板片 4 3 c をリンク 4 3 d によって移動させることができるようになされており、収納部 4 3 内における収納容器 3 との間に、隙間を形成したり隙間を無くしたりすることができるようになされている。したがって、収納部 4 3 に収納容器 3 を設けた後、この鋼板片 4 3 c を移動させて隙間を無くすことで、収納部 4 3 に収納容器 3 をセットすることができ、収納部 4 3 から収納容器 3 を取り外す場合は、逆にこの鋼板片 4 3 c を移動させて収納部 4 3 と収納容器 3 との間に隙間を形成することで取り外すことができることとなる。

【0020】

投入扉 4 1 は、この装置本体 4 の前面であって、上記した排出扉 4 2 の上方に設けられており、前方に倒し込んで開けることで、収納部 4 3 に設けた収納容器 3 に連通するようになされている。この投入扉 4 1 が設けられた装置本体 4 の前面部分は、排出扉 4 2 の上方の約 25 cm の範囲が、一側を支点として水平方向に開く開閉扉 4 4 を構成するようになされており、内側が開閉扉 4 4 で外側が投入扉 4 1 となされた二重構造となされている。

【0021】

押圧装置 5 は、装置本体 4 の上記投入扉 4 1 よりも上部に内蔵するようになされている。この押圧装置 5 は、電気モーターおよび油圧・空圧動作（図示省略）によって圧縮シリンダー 5 1 を作動させることで、この圧縮シリンダー 5 1 の先端に設けた押圧片 5 0 を、投入扉 4 1 の上方の位置から、収納部 4 3 に設けた収納容器 3 内の位置まで、最大 5 t o n の垂直荷重で、垂直方向に上下動させることができるようになされている。そして、この押圧片 5 0 が収納容器 3 内に下動する際に、この収納容器 3 内の医療廃棄物 2 を押圧することで、収納容器 3 内の医療廃棄物 2 は、減容されるようになされている。したがって、この押圧片 5 0 は、この装置本体 4 の収納部 4 3 に収納した収納容器 3 の開口に略合致して収納容器 3 内に入り込むことができる大きさとなされている。

【0022】

なお、この押圧片 5 0 が医療廃棄物 2 を押圧する際、押圧片 5 0 は、直接かつ長期間にわたって医療廃棄物 2 に接触し、菌の繁殖による不衛生な状況を招くことが懸念されるので、この押圧片 5 0 は、図 6 に示すように、押圧面 5 0 a の両側部に溝部 5 0 b が設けられ、この溝部 5 0 b 内にバネなどによる付勢手段 5 0 c が設けられている。そして、この溝

部 5 0 b 内にダンボール紙などの保護材 5 0 d の両端部を差し込んで、この両端部を付勢手段 5 0 c によって押さえ付けることで、押圧面 5 0 a に保護材 5 0 d を装着することができるようになされている。これにより、押圧片 5 0 は、押圧面 5 0 a に設けた保護材 5 0 d を、定期的に取り替えることで、押圧片 5 0 での菌繁殖を防止することができるようになされている。

【 0 0 2 3 】

この押圧装置 5 は、装置本体 4 の前面上部に設けられた処理ボタン 5 2、梱包ボタン 5 3、緊急停止ボタン 5 4 によって操作される。なお、処理ボタン 5 2 および梱包ボタン 5 3 には、それぞれ連動した処理ランプ 5 5、梱包ランプ 5 6 が点灯するようになされている。

10

【 0 0 2 4 】

また、押出装置 5 は、装置本体 4 の投入扉 4 1、排出扉 4 2、開閉扉 4 4 が開いた状態で作動することがないように、これらの扉が閉じた時にのみ制御回路（図示省略）が作動するようになされている。

【 0 0 2 5 】

このようにして構成される医療廃棄物処理装置 1 は、上記した構成以外にも、装置本体 4 に、脱臭フィルターを備えた排気装置 4 5 が設けられ、収納部 4 3 の収納容器 3 に医療廃棄物 2 が回収されている間、この医療廃棄物 2 の脱臭をするようになされている。また、これに付加してマグネトロン、オゾン発生装置、紫外線発生装置などによる殺菌装置（図示省略）を設けてもよい。

20

【 0 0 2 6 】

次に、このようにして構成される医療廃棄物処理装置 1 の使用方法について説明する。

【 0 0 2 7 】

まず、この医療廃棄物処理装置 1 を使用するにあたり、装置本体 4 に収納容器 3 を取り付ける。

【 0 0 2 8 】

収納容器 3 は、図 4 に示すように、ダンボール箱 3 1 のフラップ 3 1 a を立て、その内側にビニール袋 3 2 を設けてフラップ 3 1 a の外側に折り返した状態にしておく。この収納容器 3 は、排出扉 4 2 および開閉扉 4 4 を開くとともにハンドル 4 3 b を手前に引いて鋼板片 4 3 c を移動させて収納部 4 3 に十分な隙間を設けた状態にしてから収納部 4 3 に配置する。配置後は、ハンドル 4 3 b を押しこんで鋼板片 4 3 c を移動させて収納容器 3 周辺の収納部 4 3 の隙間を無くした状態として装置本体 4 の収納部 4 3 に収納容器 3 を設置完了する。同時に、押圧片 5 0 の押圧面 5 0 a に保護材 5 0 d を取り付け、その後、排出扉 4 2 および開閉扉 4 4 を閉じて使用可能な状態とする。この際、フラップ 3 1 a の外側に折り返したビニール袋 3 2 と接することとなる収納部 4 3 内の部分には、ゴムなど弾性材料を設けておく。このようにすることで、後に押圧片 5 0 によって収納容器 3 内の医療廃棄物 2 を押圧しても、フラップ 3 1 a の外側に折り返したビニール袋 3 2 がずれてダンボール箱 3 1 内に入り込んでしまうといったことを防止することができる。

30

【 0 0 2 9 】

医療廃棄物 2 が発生すると、投入扉 4 1 を開けて収納部 4 3 に設けた収納容器 3 に投入する。

40

【 0 0 3 0 】

収納容器 3 内がいっぱいになれば、投入扉 4 1 を閉めた後、処理ボタン 5 2 を押す。すると、処理ランプ 5 5 が点灯し、収納部 4 3 内では、押圧片 5 0 が下動して収納容器 3 内の医療廃棄物 2 を上方から押圧して減容する。減容後、押圧片 5 0 は、再度上昇して元の位置へ戻る。また、この元の位置に戻った際に処理ランプ 5 5 が消え、作業の終了を知らせる。この減容の際、収納容器 3 は、収納部 4 3 に隙間無く納めるようにしているので、収納容器 3 内の医療廃棄物 2 が押圧片 5 0 による押圧力を受けても、破壊されないこととなる。

【 0 0 3 1 】

50

このように減容した医療廃棄物 2 によって収納容器 3 内がいっぱいになれば、処理ランプ 5 5 が消灯していることを確認した後、梱包ボタン 5 3 を押す。すると、梱包ランプ 5 6 が点灯し、作業位置にあった押圧片 5 0 が梱包に邪魔にならないように上昇するので、排出扉 4 2 および開閉扉 4 4 を開いて収納容器 3 を取り出す。この際、押圧片 5 0 に取り付けられた保護材 5 0 d は、取り外して収納容器 3 内に回収する。また、収納容器 3 は、収納部 4 3 内に隙間無く設けられた状態となされており、そのままでは取り出すことができないので、ハンドル 4 3 b を手前に引いて鋼板片 4 3 c を移動させて収納部 4 3 に十分な隙間を設けた状態にしてから収納部 4 3 から取り出す。

【 0 0 3 2 】

このようにして取り出した収納容器 3 は、ビニール袋 3 2 の部分の開口を閉じた後、ダンボール箱 3 1 のフラップ 3 1 a を折り畳んでテープ止めした後、その上からさらにバンド（図示省略）などで止めて梱包作業を完了する。 10

【 0 0 3 3 】

このようにして梱包された医療廃棄物 2 は、収納容器 3 内に減容状態でぎっしりと詰めることができるので、大量の医療廃棄物 2 を収納容器 3 に、効率良く容易に回収できることとなる。

【 0 0 3 4 】

また、回収の際、医療廃棄物 2 は、手で触れることなく、押圧片 5 0 によって押圧するため、安全かつ衛生的に回収できる。

【 0 0 3 5 】

さらに、回収した収納容器 3 は、ダンボール箱 3 1 の内側にビニール袋 3 2 を設けたものであるため、この収納容器 3 ごと回収業者に引き渡すことができる。 20

【 0 0 3 6 】

さらに、医療廃棄物処理装置 1 は、投入扉 4 1 を開けて収納部 4 3 内の収納容器 3 に医療廃棄物 2 を投入するようになされているため、普段の生活環境から、収納容器 3 や医療廃棄物 2 を隔離した状態で回収できる。したがって、より安全かつ衛生的であり、押圧片 5 0 による医療廃棄物 2 の押圧時もある程度手を挟んでしまうといったようなこととなるのを防止できる。

【 0 0 3 7 】

なお、この医療廃棄物処理装置 1 において、収納容器 3 に回収される医療廃棄物 2 の量は、投入扉 4 1 を開けて収納部 4 3 内の収納容器 3 に医療廃棄物 2 を投入する際に目視で確認するようになされているが、押圧片 5 0 の押圧時における伸縮シリンダー 5 1 のストロークの長さや、荷重リミット装置 4 3 a に加わっている荷重などを管理することで、収納容器 3 内にどの程度の医療廃棄物 2 が収納されているかを自動的に把握することができるようにしてもよい。 30

【 0 0 3 8 】

また、本実施の形態において、医療廃棄物処理装置 1 は、処理ボタン 5 2 を押せば押圧片 5 0 が下動して収納容器 3 内の医療廃棄物 2 を上方から押圧して減容した後、再度上昇して元の位置へ戻るようになされているが、処理ボタン 5 2 を押せば押圧片 5 0 が下動し、再度処理ボタン 5 2 を押せば押圧片 5 0 が上昇するようにしてもよい。この場合も、処理ボタン 5 2 を一度だけ押した状態では、押圧片 5 0 が常に収納容器 3 内の医療廃棄物 2 を押圧した状態となるので、押圧片 5 0 の押圧時における伸縮シリンダー 5 1 のストロークの長さや、荷重リミット装置 4 3 a に加わっている荷重などを管理することで、収納容器 3 内にどの程度の医療廃棄物 2 が収納されているかを把握することができる。 40

【 0 0 3 9 】

また、本実施の形態において、医療廃棄物処理装置 1 は、投入扉 4 1 を開けて収納部 4 3 内の収納容器 3 に医療廃棄物 2 を投入するようになされているため、普段の生活環境から、収納部 4 3 内に医療廃棄物 2 を隔離した状態で回収できるようになされているが、図 7 に示すように、投入扉 4 1 を無くしてコンパクトで、かつ、簡易に形成した医療廃棄物処理装置 1 であってもよい。図 7 において、図 1 ないし図 6 と同部材には同符号を付して説 50

明を省略する。この医療廃棄物処理装置 1 は、底板 4 4 が前後方向に出し入れできるようになされており、この底板 4 4 上に収納容器 3 を載せて出し入れすることで、収納部 4 3 に収納容器 3 を収納したり、また、収納部 4 3 に収納した収納容器 3 を取り出すことができるようになされている。また、収納状態において、収納容器 3 内の医療廃棄物 2 を押圧片 5 0 で押圧しても、収納容器 3 が破壊されないように、収納容器 3 は、両側面と背面とが装置本体 4 に密接して無駄な間隙が生じないようにサイズ設定されている。押圧装置 5 は、モーター 5 7 によって回転するピニオンギア 5 7 a とラック 5 8 とを噛み合わせ、ラック 5 8 に設けた押圧片 5 0 を昇降させることができるようになされている。この押圧装置 5 は、装置本体 4 の上面に設けられたコントロールパネル 4 5 に、前記図 1 ないし図 3 に示す医療廃棄物処理装置 1 と同様に処理ボタン（図示省略）等が設けられており、これら 10 を操作することによって使用される。ただし、この医療廃棄物処理装置 1 の場合、投入扉 4 1 が無いので、医療廃棄物 2 を廃棄する時以外は、押圧片 5 0 によって医療廃棄物 2 を常に押圧した状態として、押圧片 5 0 を収納容器 3 の蓋代わりに利用することが好ましい。

【0040】

このようにして構成される医療廃棄物処理装置 1 は、病院などにおいて、各治療室毎に設けてもよいし、各治療室で回収した医療廃棄物 2 を一カ所でまとめて回収するようにしてもよい。また、トイレなどに配置し、トイレなどで廃棄される使用済みの女性用整理用品や紙おむつなどの回収に使用してもよい。したがって、医療廃棄物処理装置 1 の大きさとしても、特に限定されるものではなく、その用途と使用場所に応じて適宜に決められる。 20

【0041】

【発明の効果】

以上述べたように、本発明によると、収納容器に投入された医療廃棄物を、押圧片で押圧して減容しながら回収するので、大量の医療廃棄物を収納容器に、効率良く容易に回収できることとなる。また、医療廃棄物は、手で触れることなく、押圧片によって押圧するため、安全かつ衛生的に回収できる。したがって、収納容器をあらかじめダンボール箱の内側にビニール袋を設けたものにしておけば、効率良く回収した後の医療廃棄物は、収納容器ごと回収業者に引き渡すことができる。

【0042】

また、押圧装置による押圧片のストロークの長さや押圧力の変化を検知して、収納容器内の医療廃棄物の容量を把握することで、収納容器内の容量を管理して収納過剰や収納不足になることなく、無駄なく効率の良い医療廃棄物の回収ができることとなる。 30

【0043】

さらに、装置本体に投入扉を設け、この投入扉を開けて装置本体内に配置された収納容器内に医療廃棄物を投入するようにすることで、普段の生活環境から、収納容器や医療廃棄物を隔離した状態で回収でき、より安全かつ衛生的に医療廃棄物 2 の回収を行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明に係る医療廃棄物処理装置の全体構成の概略を示す正面図である。

【図 2】図 1 における医療廃棄物処理装置の排出扉および開閉扉を開けた状態を示す正面図である。 40

【図 3】本発明に係る医療廃棄物処理装置の全体構成の概略を示す側面透視図である。

【図 4】本発明に係る医療廃棄物処理装置に使用される収納容器を示す斜視図である。

【図 5】(a) および (b) は、収納部に収納容器を収納する状態を説明するための医療廃棄物処理装置の水平断面図である。

【図 6】押圧片に保護材を取り付ける機構を説明する断面図である。

【図 7】本発明に係る医療廃棄物処理装置の他の実施の形態を示す斜視図である。

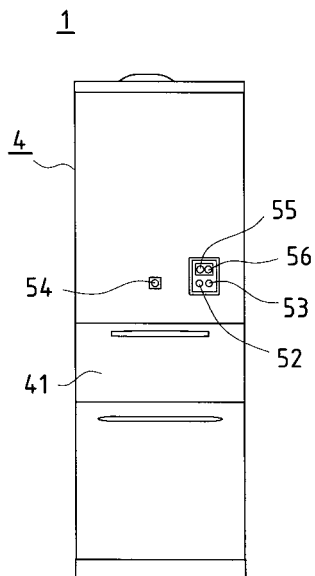
【図 8】従来の医療廃棄物の処理方法の概略を示すブロック図である。

【符号の説明】

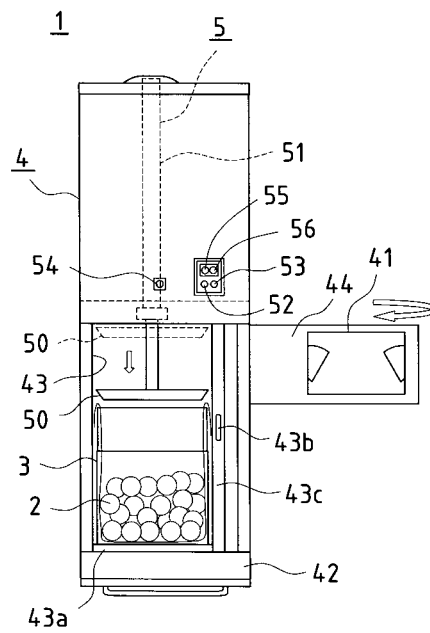
1 医療廃棄物処理装置

- 2 医療廃棄物
- 3 収納容器
- 4 装置本体
- 4 1 投入扉
- 4 2 排出扉（出入口）
- 5 押圧装置
- 5 0 押圧片
- 5 2 処理ボタン

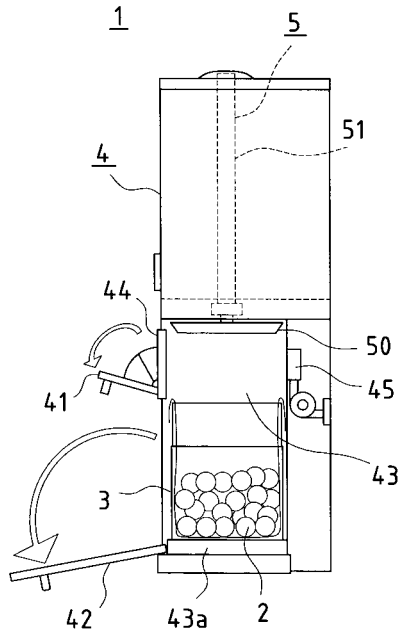
【図 1】



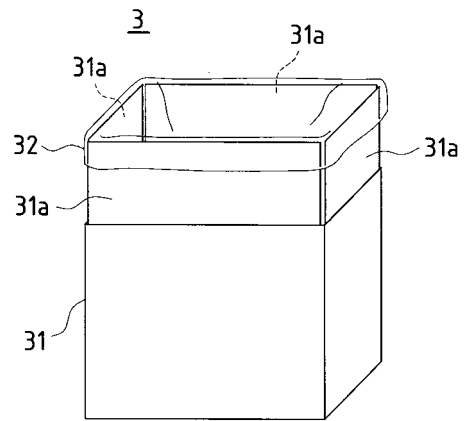
【図 2】



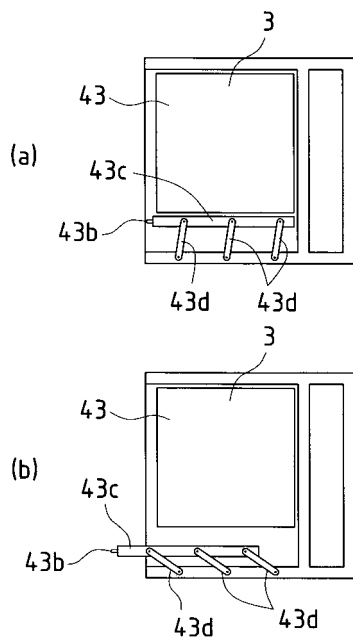
【 図 3 】



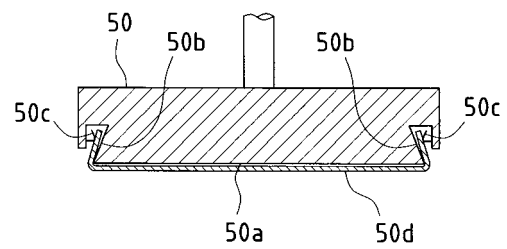
【 図 4 】



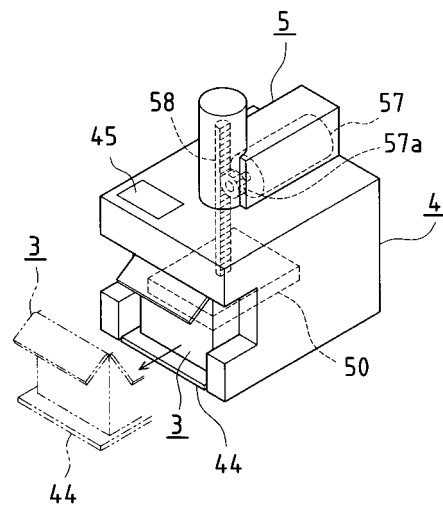
【 図 5 】



【 図 6 】



【 図 7 】



【 図 8 】

